

2019 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	理学療法治療学Ⅲ-A		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	昼間部2年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員	堀毛 信志	実務経験とその関連資格	理学療法士。総合病院に13年間勤務。主業務はリハビリテーション業務として、自立支援施設2年、障害がい者病棟2年3ヵ月、一般病棟4年7ヵ月、回復期病棟3年4ヵ月配属。3学会合同呼吸認定療法士取得。			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>切断・閉鎖後リハビリ目標は、義足表有別性予原価、義足歩行練習、自立歩行力伝を習得することが出来るようになる。ノドレツソフが出来るようになる。</p> <p>末梢神経障害:末梢神経走行の解剖を理解できるようになる。評価が出来るようになる。治療の方法が考えられるようになる。</p> <p>痛:評価、固術期リハビリ、化学療法、放射線療法の副作用とリスク管理、骨転移患者への対応、基本動作、ADLが理解できる。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>学期末テスト、小テストを実施予定。</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>①切断:15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 義肢学 中山書店                  ②末梢神経障害:15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動期障害 理学療法学Ⅰ 中山書店                  ③癌:日本理学療法士協会 主催 がんのリハビリテーション研修会テキスト                  ①・②は教科書を使用、③はテキストを参考にパワーポイントスライドで実施。資料は配布予定。</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>毎回授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>動画などの用いたり、動作を行ったり、身体も使いながら理解を深めたいと考えています。国家試験での問題数は多くないかも知れませんが、臨床に出てからも印象に残るような授業を行いたいと考えています。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>下肢切断の評価項目を理解し実施できる。</li> <li>下肢切断の理学療法における問題点が抽出できる。</li> </ul>		パソコン、スクリーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>ROM、MMT検査方法</li> <li>下肢長・周径など形態測定</li> <li>皮膚の表在感覚、皮膚温の評価</li> </ul>	
	各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>義足の判断基準、切断肢の評価方法・注意点。</li> <li>関節可動域・筋力評価の注意点、その実践が出来る。</li> </ul>				
第2回	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価に基づく機能予後予測が出来、治療プログラムが立案できる。</li> <li>機能障害に対する治療・予後予測が出来る。</li> </ul>		パソコン、スクリーン、弾力包帯	<ul style="list-style-type: none"> <li>立位・歩行の運動学と、立位・歩行に必要な身体機能</li> <li>車いすを中心としたADLについて</li> </ul>	
	各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>義足装着前理学療法を学ぶ。評価結果から問題点の整理、切断者の病態把握、予後予測に基づくプログラムの立案。</li> </ul>				
第3回	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>切断原因となる疾患を列挙できる。</li> <li>原因疾患の概要を理解する。</li> </ul>		パソコン、スクリーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>末梢循環障害</li> <li>糖尿病</li> <li>先天異常</li> <li>四肢の悪性軟部組織腫瘍</li> <li>骨折の基本的治療について学習しておく</li> </ul>	
	各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>切断の理学療法を安全かつ効果的に行うために、切断原因となる疾患の知識を理解する。</li> </ul>				
第4回	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>義足装着理学療法の流れを理解する。</li> <li>立位バランスの重要性、歩行練習へ進行させる判断が出来る。</li> </ul>		パソコン、スクリーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>立位バランス、ステップ練習について</li> <li>床からの立ち上がり、跨ぎ、階段昇降などの順序</li> </ul>	
	各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>義足装着して行う練習とその留意点を学習する。</li> </ul>				
第5回	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>末梢神経障害の病態、原因、臨床症状を理解する。</li> </ul>		パソコン、スクリーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>末梢神経走行の解剖</li> <li>末梢神経の運動・感覚支配領域</li> </ul>	
	各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>末梢神経障害がどのような原因で発生し、どのような病態に至るかを学習する。</li> </ul>				

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・末梢神経損傷における理学療法評価の内容とその意味を理解する。</li> <li>・評価の実施、機能障害の予防、治療が実践できる。</li> </ul>	・パソコン、スクリーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・末梢神経損傷の病態</li> <li>・MMT、ROM、感覚検査、反射検査</li> </ul>
	各コマにおける授業予定	末梢神経損傷において理学療法士が行う評価と治療方法について学習します。		
第7回	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんのリハビリテーションの概要の理解</li> <li>・周術期のリハビリテーション、評価のポイントとリハビリの実際</li> </ul>	・パソコン、スクリーン	骨腫瘍について
	各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんの疫学・治療・医療の動向について学ぶ。</li> <li>・がんリハビリの概要、リスク管理、病期別のリハビリテーションの概要について理解を深める。</li> </ul>		
第8回	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学療法・放射線療法の副作用とリスク管理を理解する。</li> <li>・進行がん患者に対するリハビリテーションアプローチ。</li> </ul>	・パソコン、スクリーン	生化学データの診方
	各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学療法、放射線治療後の患者にリハビリを施行する際には、その目標設定と同時にリスク管理を行う。リスク管理を行うために、がんやがん治療に伴って生じる症状について知識を持つ。</li> </ul>		
第9回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第10回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第11回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第12回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第13回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第14回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第15回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			